

「企画展 呉港と海上保安部」を開催！

令和5年1月18日(水)～23日(月)の間、大和ミュージアム1階ガイダンスルームにて、「企画展 呉港と海上保安部」を開催しました。



呉港の海図や呉海上保安部所属の巡視船艇、灯台に関する資料等を展示し、呉港と呉海上保安部の「今」と「昔」を紹介する内容となっています。





以下、展示資料の一部をご紹介します！

軍機第 232 号海図「呉港」

昭和 20 年頃の呉港の水深や地形、海軍施設の配置など重要事項が把握できる海図で、軍事上の機密として取り扱われていたものです。

機密海図は重要度に応じて上位から順に「軍機」「軍極秘」「秘」と 3 種類に区分されており、本展示海図は最重要である「軍機」に分類されます。



海上保安大学校初代練習船「栗橋」

1897年（明治30年）、デンマークのヘルシンゴー造船所で、スウェーデン Neptun 社の救難曳船 Herakles として建造されました。1905年（明治38年）、日露戦争で旅順港閉塞のため港内に沈めた沈船の引揚作業用として旧日本海軍が購入し、このとき船名は「栗橋丸」となります。海軍港務部に所属し港湾の拡充整備等に従事し、横浜で終戦を迎えました。

戦後1948年（昭和23年）海上保安庁発足と同時に移管され、1952年（昭和27年）海上保安大学校の初代練習船となりました。1954年（昭和29年）巡視船としての任務を解除され、翌年に解体。57年を越える船歴に終止符を打ちました。



PL106 初代巡視船こじま

1945年（昭和20年）、海防艦志賀として竣工。1954年（昭和29年）海上保安庁に編入され、海上保安大学校の2代目練習船、巡視船こじまとなりました。

約10年間練習船として活躍し、1965年（昭和40年）後継船の就役に伴い退役。退役後は「千葉市海洋公民館」として開館しましたが、老朽化や保存コストを理由に1998年（平成10年）解体されました。



初代巡視船こじまの甲板取付双眼鏡（左）と、初代練習船「栗橋」の号鐘（右）



アセチレンガス灯器

広島県呉市にある「三ツ石（みついし）灯台」は1927年（昭和2年）から今日まで約95年間、安芸灘の船舶交通の安全を守り続けてきました。

建設当初に採用されていた灯器がこの「アセチレンガス灯器」で、1967年まで活躍しました。



LD型灯器

三ツ石灯台で2番目に採用された灯器。

上下左右に4個の電球がついていて、電球が切れると回転して次の電球に切り替わります。



当時の設置状況を再現して、「フレネルレンズ」という光を効率よく拡散するレンズに入れて展示しました。



LED 型灯器

三ツ石灯台において、LD 型灯器に代わって 2003 年（平成 15 年）から使用している灯器。電源に太陽光や波力を利用することで、温室効果ガス排出量の削減を図るとともに、災害発生時においても安定して運用することができます。



さいごに…

開催期間中には、地元呉市のみならず東京など遠方からお越しいただき、大変嬉しく思いました。今後とも、海上保安庁へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

おまけ：10分の1戦艦「大和」に大興奮のうみまるくん

